

Title	京大広報 No. 548
Author(s)	
Citation	京大広報 (2000), 548: 909-920
Issue Date	2000-07
URL	http://hdl.handle.net/2433/196560
Right	
Type	Others
Textversion	publisher



京大広報

No. 548

2000. 7



留学生歓迎パーティー -- 関連記事本文911ページ --

目次

大学の動き

部局長の再任	910
博士学位授与式	910
創立記念式の挙行	910
平成12年度外国人留学生歓迎パーティー	911
日誌	912

栄誉

柳田充弘生命科学研究科教授が 英国王立協会外国人会員に選ばれる	912
--	-----

訃報	913
----------	-----

文化交流

ノースカロライナ州に住んでみて 馬場啓一	914
-------------------------------	-----

随想

The Bone and Joint Decade 2000-2010 名誉教授 山室隆夫	915
--	-----

洛書

アメフトの魅力	今本博健 ...916
---------------	-------------

公開講座

- 終了報告 - 教育学研究科附属臨床教育実践研究センター 公開講座 夢を演じる - 身体の変タフア化 -	917
--	-----

話題

京都大学 COE 元素科学研究拠点 発足記念学術講演会の開催	918
---	-----

お知らせ

「白馬山の家」の夏季開設	919
「白浜海の家」の利用	919
「総合体育館附設プール」の夏季利用	920

大学の動き

部局長の再任

食糧科学研究所長

森 友彦食糧科学研究所教授（食品構造機能研究部門担当）が、6月11日食糧科学研究所長に再任された。任期は平成15年6月10日までである。

博士学位授与式

5月23日（火）午前10時30分から、京大会館において、長尾 真総長，両副学長をはじめ，各研究科長，事務局長出席のもと，博士学位授与式が挙行された。

総長から，各授与者に対し学位記（平成12年5月23日付）が手渡された後，総長の式辞があり，午前11時10分終了した。

各研究科別内訳は次のとおりである。

研 究 科	課程博士	論文博士	計
文 学 研 究 科	2	2	4
法 学 研 究 科	2	1	3
経 済 学 研 究 科	3	-	3
理 学 研 究 科	8	1	9
医 学 研 究 科	10	8	18
薬 学 研 究 科	-	1	1
工 学 研 究 科	9	6	15
農 学 研 究 科	6	2	8
人間・環境学研究科	3	-	3
エネルギー科学研究科	1	-	1
情 報 学 研 究 科	1	-	1
計	45	21	66

創立記念式の挙行

6月19日（月）本学創立103周年記念式が，元総長，名誉教授，各部局長等関係者多数の出席を得て，本学総合体育館において挙行された。

式は午前10時に始まり，総長式辞，永年勤続者の表彰，永年勤続者代表の答辞があり，午前10時40分終了した。

本年表彰された方は，30年勤続者82人，20年勤続者49人の計131人であった。

お名前は6月23日の学報第4750号に掲載されている。



平成12年度外国人留学生歓迎パーティー

平成12年度入学外国人留学生歓迎パーティーが6月9日（金）午後6時より、京都ガーデンパレスにおいて宮崎 昭副学長主催のもとに開催された。

外国人留学生、長尾 真総長、部局長及び指導教官並びに来賓として京都府、京都市等の国際交流関係者、約300人が出席して盛大に行われた。

パーティーは、総長の歓迎挨拶で始まり、新入留学生を代表して、文学研究科研究生の GALIT LIZA

AVIMAN さんが日本語によるスピーチを行い、宮崎副学長の発声で乾杯をした。パーティーは終始和やかな雰囲気の中で行われ、途中、京都大学邦楽サークルである叡風会が古典邦楽等を演奏し、歓迎ムードを盛り上げた。

なお、5月1日現在の国（地域）別留学生数は次のとおりである。

地域	区分 国名等	学 部		大 学 院			研究 生等	計
		学 生	聴講生	修士課程	博士課程	聴講生		
ア ジ ア 州 (24)	バングラデシュ			1	12		3	16
	カンボジア	5		1			1	7
	中国	70		74	148	3	104	399
	インド				2		1	3
	インドネシア	6		12	18		7	43
	イラン	1		1	3		2	7
	イスラエル				1		2	3
	ヨルダン			1	1			2
	韓国	5		28	98	1	36	168
	ラオス						1	1
	マレーシア	4		4	7			15
	モンゴル	5		1	1		2	9
	ミャンマー			4	1			5
	ネパール	1			4			5
	パキスタン				3			3
	フィリピン	5		2	3		3	13
	サウジアラビア				1			1
	シンガポール	9		1	2		1	13
	スリランカ				1			1
	タイ	4		9	22		9	44
	トルコ	1			3		1	5
	ベトナム	4		2	3		5	14
	台湾	1		25	27		17	70
	香港				3			3
大洋州(2)	オーストラリア	3		2	3		4	12
	ニュージーランド	3			1		1	5
ア フ リ カ 州 (12)	アルジェリア			1				1
	コートジボワール				2			2
	エジプト				3			3
	エチオピア			1	1			2
	ガーナ				2			2
	ケニア			1	2			3
	モロッコ	1		3				4
	ナイジェリア						1	1
	南アフリカ				1			1
	スーダン				1			1
	チュニジア				2			2
	タンザニア				6		1	7

地域	区分 国名等	学 部		大 学 院			研究 生等	計
		学 生	聴講生	修士課程	博士課程	聴講生		
ヨ ー ロ ッ パ 州 (21)	オーストリア				2		2	4
	ベルギー			1	2		2	5
	ブルガリア				1		1	1
	チェコ				1		1	2
	エストニア						1	1
	フランス			3	1		6	10
	ドイツ				5		12	17
	ギリシャ				1			1
	ハンガリー	1		2	2		5	10
	イタリア			1	2		1	4
	リトアニア						1	1
	オランダ				1		1	2
	ポーランド			2	1		2	5
	ポルトガル				1			1
	ルーマニア	3		2	1		2	8
	スロバキア				1			1
	スペイン				2		5	7
	スウェーデン				1		2	3
N I S 諸 国 (5)	スイス						4	4
	連合王国			1	1		3	5
	ユーゴスラビア						1	1
	ベラルーシ	1					1	1
	カザフスタン				1		1	2
北 ア メ リ カ 州 (3)	ロシア				3		4	8
	ウクライナ				1			1
	ウズベキスタン						1	1
南 ア メ リ カ 州 (6)	カナダ			3	2		2	7
	メキシコ			2	3			5
	アメリカ			2	8		12	22
南 ア メ リ カ 州 (6)	アルゼンチン	1		1	1		1	4
	ブラジル			4	6		3	13
	チリ			1				1
	コロンビア			1	1		2	4
	ペルー			1	1			2
	ベネズエラ			1	3			4
計 (74)		134		202	444	4	280	1,064

日誌

2000. 5. 1 ~ 5. 31

5月9日	評議会	23日	評議会
15日	京都大学春秋講義 月曜講義第1日目 (以後22日, 29日, 6月5日, 12日開催)	"	自己点検・評価委員会
16日	附属図書館商議会	"	将来構想検討委員会
17日	国際交流委員会	"	防火委員会
"	京都大学春秋講義 水曜講義第1日目 (以後24日, 31日, 6月7日, 14日開催)	"	博士学位授与式
		29日	発明審議委員会
		30日	総長, 大学院生協議会と会見

荣誉

柳田充弘生命科学研究科教授が
英国王立協会外国人会員に選ばれる

柳田充弘教授が、2000年5月11日付けで英国王立協会（The Royal Society）の外国人会員に選出されました。

英国王立協会は、17世紀近代科学の成立と時を同じくして設立（1660年）され、アイザック・ニュートンも長く会長を務めた世界的に最も歴史のある学術団体の一つで、近代的学会の嚆矢ともみなされています。特に自然科学の各分野で卓越した先駆的発見をした科学者を会員として運営され、その会員に選ばれることは英国の科学者にとって最大の名誉とされています。現在の外国人会員は110人で、そのうちの四割がノーベル賞受賞者で占められています。また、これまでの日本人会員には、本学の故湯川秀樹名誉教授、故沼 正作教授、江橋節郎東京大学名誉教授、西塚泰美神戸大学長、伊藤正男理化学研究所脳科学総合センター長がおられ、柳田教授は日本人として6人目の選出となりました。

以下に同教授の略歴と業績を紹介します。

柳田充弘教授は、昭和39年東京大学理学部生物化学科卒業、同41年同大学大学院修士課程を修了、同42年スイス国ジュネーブ大学分子生物学研究所の研究助手に就任、その後、イタリア国、米国での研究生活を経て、同46年本学理学部助教授、同53年同教授、平成7年大学院理学研究科教授、同11年大学院生命科学研究科統合生命科学専攻遺伝機構学講座教授として、遺伝子伝達学分野を担当されている。

同教授は、ほとんど未解明であった染色体分配という細胞生物学の大問題に、体系的な解析方法でチャレンジし、分配制御機構の骨組みを分子レベルで



明らかにし、また重要な制御因子を次々と発見された。また、研究の初期に、染色体分配の機構を解析可能にする遺伝的システムを分裂酵母を用いて世界に先駆けて構築し、本研究分野の成立そのものに大きく寄与された。その後も人工ミニ染色体の作製、染色体ドメインの視覚化、動原体の全構造の解明など、染色体操作とゲノム解析において多大な貢献をされている。これらの研究に伴い開発した諸技術は、現在、世界の第一線の研究室で汎用されている。

また同教授は、染色体分配異常を示す突然変異体を体系的に分離する研究から、30種類以上の必須遺伝子とその産物であるタンパク質を同定し、ヒトを含めた高等真核生物の染色体分配にも普遍的に対応していることを明らかにされた。染色体凝縮やスピ

ンドル装置形成に必須なタンパク質機能の発見，分裂期中期後期遷移に必須な制御因子の同定と機能解析を通して，染色体分配にいたるまでに必要となる素過程の分子メカニズムの解明に主要な貢献をされた。

さらに同教授は，染色体分配に直接関わる Cut 2 タンパク質の細胞周期特異的分解メカニズムの解明を通して，分裂期遷移と染色体分配がいかに同調して起こるかという最も基本的な謎を解明することに

成功するなど，この分野の概念的発展にも貢献されている。

これら一連の独創的な研究により，国際的に極めて高い評価を受け，*JMB*，*Cell*，*MBC*，*TIBS*，*Curr. Biol.*，*Chromosoma*，*Gene to Cells* 等の編集委員を務められている。平成 7 年にはヨーロッパ分子生物学機構（EMBO）の外国人会員に選出され，同 12 年に東レ科学技術賞を受賞された。また平成 11 年から日本分子生物学会会長を務められている。

（大学院生命科学研究科）

訃報

このたび、^{やぶうち}藪内 ^{きよし}清名誉教授が逝去されました。

ここに、謹んで哀悼の意を表します。

以下に同名誉教授の略歴，業績等を紹介します。

藪内 清 名誉教授



本学名誉教授藪内 清先生は、6 月 2 日逝去された。享年 94。

先生は、昭和 4 年京都帝国大学理学部を卒業後、理学部副手、東方文化研究所研究員、本学人文科学研究所研究員を経て、同

24 年人文科学研究所教授に就任、同 44 年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和 42 年 10 月から同 44 年 3 月まで本学評議員、人文科学研究所長及び人文科学研究所附属東洋学文献センター長を歴任され、大学の管理運営に貢献された。本学退官後は、龍谷大学教授、京都市教育委員会委員を務められた。

先生は、中国天文暦法史を中心に、天文・数学・医学・本草・科学思想等の分野にわたる総合的な考察を通じて中国科学技術史研究の基礎を確立され、不朽の業績を残された。また、立杭窯、西陣織といった日本の伝統的生産技術に関する研究もされた。

著書には、『中国の天文暦法』など多数あり、人文科学研究所において主催した共同研究の成果は、編著『宋元時代の科学技術史』『明清時代の科学技術史』、訳書『天工開物』等に集大成されている。

これら一連の功績により、昭和 45 年 11 月紫綬褒章、同 51 年 4 月勲二等瑞宝章、同 48 年ジョージ・サートン賞を受賞、同 58 年日本学士院会員に選出された。

（人文科学研究所）

文化交流

ノースカロライナ州に住んでみて

馬場 啓一

平成11年5月より10カ月間、文部省在外研究員としてアメリカ合衆国のノースカロライナ州立大学に滞在しました。ノースカロライナ州は東海岸の中央部にあり、いわゆる「南部」と言われる地域の北端です。日本ではあまり紹介されない州のひとつで、南部訛が聞き取りにくかったのには閉口しました。いきなり「Has gone.」と言われて「行ってしまった？何？」と戸惑いました。周囲の人の受け答えでどうも挨拶らしいことがわかり、実は「How is it going?」(How are you?の南部的な言い回し?)を縮めて言ってるのだとわかったのは、ずいぶんあとになってからでした。

ノースカロライナ州立大学は林学部を持ち、林学・林産学分野の研究が活発です。それもそのはず、この州はアメリカ東部の木材・林産物の主産地なのです。ライト兄弟が人類初の動力飛行を成功させた地はこの州の大西洋岸にあるのですが、彼らがそこを拠点としたのも良質のスプルース(トウヒ材)が手に入るからというのが要因のひとつだったそうです。軽合金が開発される以前、スプルースは最も比強度の高い、軽くて強い材料だったのです。今もスプルースはこの州を代表する産物ですが、一番印象に残っているのはクリスマスツリーの畑です。小さいスプルースの木を、まるで宇治の茶畑のように整然と並べて植えてある光景は州西部のいたるところで見られます。クリスマスのためだけにあれほど大量の幼木を毎年消費しているのかと非常にもったいない気がしました。それでも州の主要産物のひとつで、州立大学に「樹形が美しいスプルースを育種するプロジェクト」まであります。もちろん、形のいびつな木は出荷できなかったりするわけで、生産農家にとっては死活問題なのですが、それにしても州を挙げての熱の入れように妙な気分がしたのは文化の違いなのでしょう。ちなみにヨーロッパでもクリスマスツリーはスプルース(ヨーロッパトウヒ)なのに、日本語ではなぜか別属の「モミの木」と訳されてしまい、日本人のほとんどが樹種を勘違いしているのも面白い話です。

近年「日本をアメリカのような競争社会に」と言



クリスマスツリー(スプルース)の畑

う声がありますが、アメリカの人々は伸び伸びと暮らしていることも事実です。ある人に実験を教えて欲しいと言ったところ「両親が来るから忙しい」と事も無げに言われ、10日程お休みされました。私もアドバイザーに「来週から妻が来る」と伝えたら「じゃあ当然忙しいね」と言われ、しばらく伸び伸びとさせてもらいました。こういうセリフは日本の職場ではまず聞けません。スタッフの一人に子供が産まれたと言う理由で研究室のゼミが1回休みになったこともありました。サマータイムの導入が日本で検討された際に「仕事が増える」と不評で見送られましたが、アメリカでは「明るいうちに家族や友人と過ごせる時間が取れる」と好評です。そして「弱者には優しく」という習慣もあります。老人や大きい荷物を持った人とドアやエレベーターで一緒になった時には見知らぬ人でもたいていドアを開けてあげて先に通したりボタンを押してあげたりします。アメリカの女性運動家たちがレディーファーストを嫌ったのも「女性=弱者」という発想があったからでしょう。ともあれ、こういった風土や習慣も込みで社会のバランスがとれているのだらうと感じました。バックグラウンドにある文化や風土・習慣を無視してごく一部の制度だけを切り出して移植しようとしても、うまく機能しないのではないのでしょうか。いたずらに他人(外国)の真似をするのではなく、自分(日本)の良いところを伸ばすように考える方が精神衛生上も良いのではないのでしょうか。

(ばば けいいち 木質科学研究所助手)

随想

The Bone and Joint Decade 2000 ~ 2010

名誉教授 山室 隆夫

周知のように、現在、わが国は世界一の長寿国である。厚生省の調べによると、1998年の日本人の平均寿命は女性が84.01歳、男性が77.16歳であった。1999年には、日本全国で百歳を超えた人の数が11,346名になっ



たという驚くべき数字も発表されている。このような長寿化はわが国の経済の発展や医学・医療の進歩などに支えられて達成されたものであり喜ぶべきことである。しかし、長寿化と同時に少子化も進んできているので、今年から実施される介護保険制度の財政的裏づけという点からみても老後の生活の将来への見通しは明るくない。現在は4人の現役世代で1人の老人を支えているが、2025年頃には2人で1人の老人を支えなければならなくなるのである。このような急速な少子・高齢化は世界の中で日本に最も顕著に起りつつあるが、他の先進国に於ても程度の差こそあれ同様のことが起っているので、このような問題に対しては国際的に協力して知恵を出し合おうという気運が最近たかまってきている。その一つの現われとしての国際的キャンペーンがThe Bone and Joint Decade 2000-2010である。その考え方は次のようである。

従来、老人医療は高齢者の寿命の延長を第一義的に考えた医療が中心であった。その結果、多額の医療費やman powerを使って生命は維持されたものの患者のQuality of Life(QOL)は余り良くなかったというようなことも屡々あった。換言すれば、患者のQOLの改善という点からはcost-effectiveであるとは言えない医療も行われてきたのである。これからの老人医療は高齢者の自立機能の障害を予防し、また残存機能を引き出し高めることによって、患者の日常生活動作(Activity of Daily Living: ADL)と精神機能を高め、QOLの改善を目指すものでなければならない。先進国では、全老人医療費の内、筋骨格系疾患(骨粗鬆症による骨折、変形性関節症、関節リウマチ、変形性脊椎症による麻痺や疼痛など)の治療に要する医療費が最も大きく全体の1/4

以上を占めている。しかも、筋骨格系の疾患は患者のADLをさまざまに障害してQOLを低下させる大きな原因となっている。したがって、逆に言えば、高齢者の自立機能障害を防止することができれば、比較的高いQOLを維持すると同時に医療費もかなり節減できることになるわけである。特に、内科的疾患の予防と治療法が進歩した今日では高齢者の生き甲斐と人間の尊厳を護るためにも自立機能をできるだけ維持することが大切である。そこで、2年前よりスウェーデンのルンド大学はWHOの後援の下にThe Bone and Joint Decade 2000-2010のキャンペーンを提案し、2000年より10年間をかけて骨・関節疾患の予防と治療法を画期的に進歩させ、高齢者のQOLを高めることを世界に呼びかけたのである。それに呼応して、欧米各国およびわが国整形外科学会、リウマチ学会、骨代謝学会、リハビリテーション医学会などの代表が1998年4月にルンドに集まって、このキャンペーンをどのように展開していくかについて討議し、その結果をconsensus documentとして公表した。

それによると、この国際キャンペーンの目標は「高齢者の筋骨格系障害が加速度的に社会にとって重荷になっていくことへの認識を喚起し、ケアの決定に参加できる力を患者に与え、cost-effectiveな予防と治療を推進し、それらの研究を通して筋骨格系障害に対する理解を深めること」となっている。このような目標に向って1999年よりNational Action Networkが動き出し、国連や世界銀行の代表とも会談して積極的な支援を取りつけた。「自立と尊厳」をキーワードとするこの10年のキャンペーンが成功すれば、老人のリハビリテーションの内容が自立機能障害の予防に向って大きく進歩すると共に、骨・軟骨の老化と破壊機構が分子レベルで解明され、関節の慢性炎症や退行性変化を制御するような画期的な生物製剤の登場なども期待される。わが国でも各界をあげてこのキャンペーンに参画してほしいものである。

(やまむろ たかお 元医学部教授 平成6年退官、専門は整形外科学)

洛書

アメフトの魅力

今本 博健

京大アメリカンフットボール部（一時期アメラグと略称されたが、ラグビーとは似て非なるものののでアメフトと略称する）は、昭和22年に創部という国立大学としては最も古い歴史を誇るが、当初は中下位に甘んじ、部の解散の危機にも直面したが、昭和40年代後半から次第に躍進し、これまで関西リーグ優勝10回、甲子園ボウル優勝6回、ライスボウル優勝（日本一）4回という栄誉に輝いている。

スポーツ面では低迷著しい国立大学のなかで、団体競技では唯一とっていいほど活躍するさまを見て、国立大学の学生は学業に専念すべきとの苦言を呈する人もいるが、よく頑張っているとお褒めいただくことも多い。お褒めの言葉は有り難く、励みにもなるが、京大が活躍できるのは「アメフトは頭を使うスポーツだから」との意見には困惑する。

確かにアメフトでは作戦は重要な要素であり、京大でも数多くの作戦を理解し実行することに時間を費やし、少なくとも上級生は素人集団の域を脱しているが、アメフトへの理解度という点では他大学が優れている例もままあり、このような意見は的を得たとはいえず、他大学に対して失礼でもある。試合中の応援でもぜひこのことは心してほしい。

では京大が活躍できる理由はなにか。作戦のみでないことはすでに触れた。毎年主力選手が卒業する大学スポーツでは伝統も有力な理由とはいえない。私は5年前に西川禎一先生から部長を引き継いだものの、アメフトには「ずぶの素人」であり、チームの活動に直接関与するわけではないが、チームに身近に接する者として率直な感想を述べてみたい。

アメフトは攻撃側と守備側にわかれて楕円形のボールを相手ゴールに持ち込もうとする陣取合戦であり、戦略的要素と戦術的要素とがうまくかみ合ったときはじめて栄冠を勝ち取れる。

戦略的要素についていえば、わがチームは水野弥一監督を中心とする優れたコーチ陣に恵まれているうえに、クラブハウスをはじめとする周辺環境も十分ではないものの、かなり整備されており、強豪他大学に対抗できる原動力となっている。

問題は戦術的要素である。格闘技の性格を併せもつアメフトの選手には、体力、知力、気力に優れることが要求される。

最も重要なのはやはり体力であろう。絶対的な体力差がある場合に弱者が強者に勝つことは至難の業である。ただ分業制のアメフトではときには力強さがときには俊敏さが重視されるため、科学的なトレーニングにより潜在的な能力を引き出せば、ひ弱に見える新入生を他大学に対抗できる逞しい選手に育てることも可能である。とはいえ優秀な選手に恵まれた他大学とは体力面に差があることは否めず、本学の基本的な弱点であることは間違いない。

これを補うのが知力と気力であろう。相手戦力を分析し、長所を発揮させずに短所をつくのが肝要であるが、わかっていても選手が実行できるとは限らない。日本一を目指す「志」と闘争心あるいは責任感から生じる気力、これがわがチームの最大の武器である。ただ空回りすることもあるのが難である。チームの活躍には選手の日常的な鍛錬が基本であるが、コーチの指導とスタッフの支えが不可欠である。チームドクターやOB会、後援会、GGQ（Green Gray Club）、大学関係者、一般ファンなどの貢献も忘れてはならない。また、新入生への入部の勧誘のみならず、高校生への受験の勧誘など、これらが総合して今日のアメフト部の活躍につながっていると思う。

しばらく不本意なシーズンが続いているが、5回目の日本一に輝く日が近いことを願って止まない。

（いまと ひろたけ 防災研究所教授）

公開講座

- 終了報告 -

教育学研究科附属臨床教育実践研究センター公開講座**夢を演じる - 身体の変換化 -****“Embodying the Dream - Metaphorizing the Body”**

今回の講座は、ユング派分析家の Robert Bosnak 氏が、当センターの客員教授として来日されたのを機に、開催された。深刻化する教育問題への取り組みの一環として、昨年度に引き続き、現代人の心の理解に主眼が置かれた。今回は特に、心理臨床を仕事とする人たちの専門的な研修の機会として企画され、夢を手掛かりに心の世界を体験し理解と関心を深めることがテーマとされた。

日 時： 5月28日(日) 午前10時～午後4時

第一部 講演 「夢を演じる - 身体の変換化 - 」

第二部 演習 ドリームワーク

場 所： 社団法人京都大学医学部芝蘭会 芝蘭会館

講 師： 臨床教育実践研究センター客員教授 Robert Bosnak
教育学研究科助教授 河合 俊雄



第一部は Bosnak 氏の講演と河合助教授による逐次通訳・コメント、第二部は実践的ドリームワークが行われ、心理臨床に関わる専門家ら55人が参加した。講演では、分析心理学の理論的背景を踏まえながら、夢体験を通じて自己の内的感覚を捉え直すことの重要性が論じられた。第二部の演習では、当日の参加者の夢を素材にしたドリームワークの実践が行われた。

(大学院教育学研究科)

話題

京都大学 COE 元素科学研究拠点発足記念学術講演会の開催

化学研究所では、6月2日(金)午後1時30分より宇治キャンパス内の共同研究棟大セミナー室において、「京都大学 COE 元素科学研究拠点発足記念学術講演会」を開催した。

まず、化学研究所杉浦幸雄前所長の挨拶に続き、京都大学側から今回の COE 研究リーダーである化学研究所玉尾皓平所長の「元素科学 COE 発足にあたって」と題する講演が行われた。

次に、わが国における中核的研究拠点方式(COE プロジェクト)の立案・構想から設立に貢献された長倉三郎神奈川科学技術アカデミー理事長により「わが国の基礎研究と COE」と題する講演が行われ、わが国における科学研究の現状と基礎研究の重要性およびそれを支える COE プロジェクトの意義について語られた。

引き続き、これまで化学の部門で採択実施されている四つの COE プロジェクトの各研究リーダーから、それぞれのプロジェクトの研究内容について、発足順に以下の講演が行われ、それぞれ各分野におけるわが国の最先端の化学について語られた。

1. 「COE への道程」

名古屋大学分子不斉 COE 研究リーダー(名古屋大学物質科学国際研究センター長 野依良治教授)

2. 「分子集合組織体と高分子との選択」

九州大学人工分子集合組織体 COE 前研究リーダー(現放送大学 岩村 秀教授)

3. 「21世紀の COE：機能調和材料の創成」

大阪大学機能調和材料原子・分子プロセス COE 研究リーダー(大阪大学産業科学研究所 川合知二教授)

4. 「先進繊維技術科学に関する研究」

信州大学先進繊維技術科学 COE 研究リーダー(信州大学繊維学部 白井汪芳教授)

最後に化学研究所新庄輝也元所長による挨拶があり午後5時に終了した。

会場には本学理学研究科長および工学研究科長をはじめ、学内外から130人を超える参加があり、化学の最先端研究リーダーによる熱のこもった講演に聴き入った。

本研究所では、今後も京都大学元素科学 COE 研究プロジェクトメンバーによる公開講演会を計画しており、この研究プロジェクトの意義に対して広く一般の認識をも深めていく予定である。

(化学研究所)



講演を行う長倉三郎氏

お知らせ

「白馬山の家」の夏季開設

本学の学生及び教職員の厚生施設として、「白馬山の家」を下記のとおり開設しますので、ご利用ください。

この「山の家」は、中部山岳国立公園白馬山麓^{つがいけ}の梅池高原にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、登山や避暑などに最適です。

建物は山小屋風の木造地上2階地下1階建で、間取りは1階が食堂兼談話室、2階が寝室、地階が浴室、乾燥室からなっています。

なお、昨年の秋に、屋根、外壁等を修理し、装いも新たになりましたので、是非、ご利用ください。

記

1. 名 称 京都大学^{はくば}白馬山の家
2. 所 在 地 長野県北安曇郡^{あすみ}小谷村大字千国字柳久保乙869の2
(交通機関)

JR 大糸線「白馬大池駅」下車、松本電鉄バス「親^{おや}の原^{はら}」下車、徒歩約20分

3. 開設期間 7月10日(月)～8月20日(日)
4. 収容人員 26人
5. 所要経費 1人1泊 使用料120円、ほかに食費等実費
6. 申し込み及び利用に関する詳細
体育会事務室(西部構内総合体育館内、内線2574)に照会してください。

「白浜海の家」の利用

本学の学生及び教職員の厚生施設として、「白浜海の家」を下記のとおり1年を通じて開設していますので、ご利用ください。

この施設は、三段壁をはじめ千畳敷・円月島など風光明媚な南紀白浜にあり、夏は海水浴に最適のところです。

また、「海の家」のある理学研究科附属瀬戸臨海実験所の構内には、500種以上の海の生物を集めた「京大白浜水族館」があり、近くには「南方熊楠記念館」もあります。(いずれも有料)

記

1. 名 称 京都大学^{むろ}白浜海の家
2. 所 在 地 和歌山県西牟婁郡白浜町 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所構内
(交通機関)

JR 紀勢本線「白浜駅」下車、明光バス「明光バス本社前」行きに乗車、終点で「臨海」行きバスに乗り換えて、「臨海」で下車。

3. 開設期間 通年開設
4. 室 数 和室3室
5. 収容人員 30人
6. 所要経費 1人1泊 使用料130円、ほかに食費等実費
7. 申し込み及び利用に関する詳細
体育会事務室(西部構内総合体育館内、内線2574)に照会してください。

「総合体育館附設プール」の夏季利用

総合体育館附設プールを下記の期間・時間にかぎり、本学の学生及び教職員向けに開放しますので、ご利用ください。

なお、利用可能日等の詳細については、学生部学生課（西部構内総合体育館内、電話学内2590）に照会してください。

記

1. 期 間 7月1日(土)～8月31日(木) (この間の40日程度)
2. 時 間 正午から午後2時まで
3. 対 象 本学の学生及び教職員

(注意)

1. 利用に際しては、受付で必ず職員証又は学生証を呈示し、利用者名簿に氏名等を記入してください。
2. プールに入る前には、必ずシャワーを利用し、十分な準備体操を行ってください。
また、水泳帽は必ず着用してください
3. 貴重品は、持ち込まないでください。
4. 都合により、利用をお断りする日がありますので、ご了承ください。

